

利根川下流河川事務所の事業概要

国土交通省 関東地方整備局
利根川下流河川事務所 所長 三枝 伸太郎

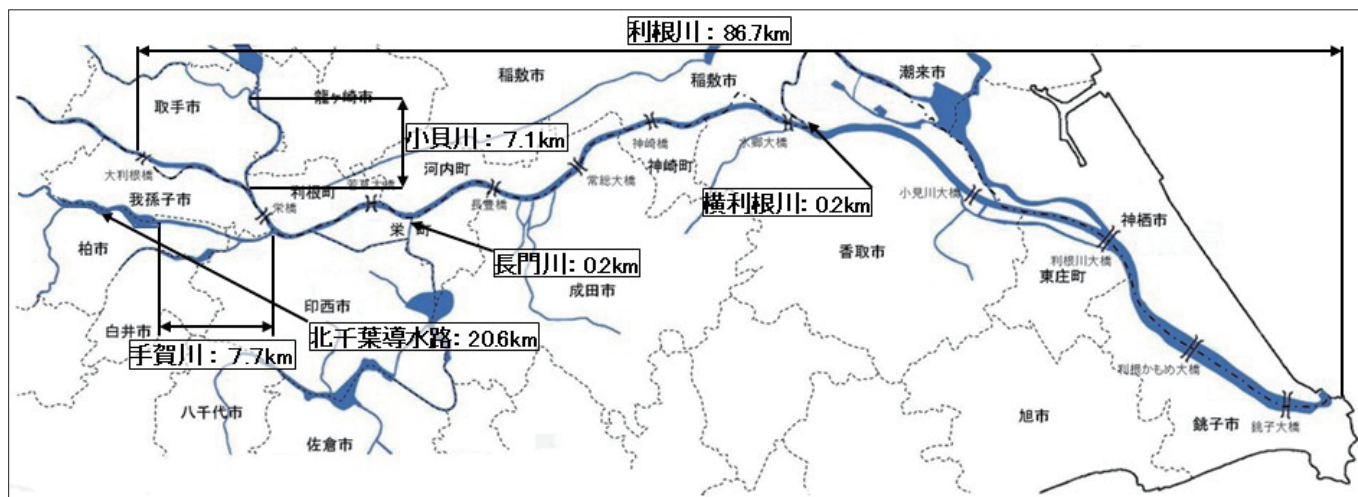


図1 利根川下流館内図

1.はじめに

利根川下流河川事務所は、我が国最大の流域面積を誇る「坂東太郎」と呼ばれ親しまれている利根川の下流部に位置します。当事務所では、利根川本川の河口部から約 86km 区間と小貝川、手賀川及び横利根川など支川の一部区間を管理しております。また、流況調整河川の北千葉導水路約 20km 区間を管理しています（図 1）。

2. 治水対策の推進

関東甲信地域で広く甚大な被害を及ぼした2019年の台風19号は、利根川下流域にも大きな浸水被害を起しました。利根川本川では、記録的降雨により既往最大流量となり、利根川河口部沿川の銚子市、神栖市の無堤防区間では溢水し氾濫が発生、河口部は低

平地のため浸水深は深くないものの広範囲にわたって浸水しました。現在、浸水被害軽減のため無堤区間において、堤防整備、支川対策の樋管等整備の対策を進めています（図2）。また、併せて流下能力の向上を図るための河道掘削や、その他危機管理対応として小貝川合流点付近の茨城県利根町押付地区において、災害発生時の緊急復旧作業に必要な資材を備蓄し、ヘリポートや水防活動に必要な作業スペースを確保する河川防災ス



図2

テーションの整備も進めています。

河川管理者が主体となって行う治水対策に加え、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、その河川流域全体のあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を軽減させる治水対策「流域治水」についても進めております。



図2 堤防整備の状況（森戸町地区）



図3 利根川下流域の自然環境と次世代に繋げる取り組み

3. 美しい自然や良好な景観の保全・創出

利根川下流域は、水郷として河川では日本最大級のヨシ原が広がり、希少かつ多様な生物の生息、生育、繁殖の場になっています。また、近年では、コウノトリの定着、繁殖、さらには未来を担う子供たちを育む場にもなっており、地域の参画、協働による取組として、沿川の学校での環境教育、自治体との共催によるシンポジウム、ヨシ焼きなどを実施しています（図3）。

4. 暮らし・産業を支える利根川

利根川の水は、利根川河口堰や房総導水路などによる開発水が首都圏や南房総地域など、広範囲の都市用水に利用されています。北千葉導水路も流況調整河川として、利根川の水が豊富な時に江戸川に水を送ることにより、首都圏の安定した都市用水の供給を可能にする役割を担うとともに、手賀川流域の内水排除や手賀沼の水質改善を行う施設としても重要な役割を果たしています。導水開始から25年が経過し、安定した利水や水質改善に効果が見られる一方で、運用コストや

老朽化の進行などの課題も発生し、これまで蓄積された運用・管理のノウハウや新たな技術等を基に、より効果的・効率的な運用・管理に向けた対策・検討等に取り組んでいます。

5. 地域の災害に備える河川管理

利根川下流河川事務所管内では、水門や排水機場など約80施設の運用を行っており、また、広大な河川敷、堤防などの河川管理施設を常に良好な状態に保ち、その機能が確実に発揮できるよう管理・運用を行っております。近年の激甚化・頻発化する自然災害に備えること、また老朽化が進んでいる施設のメンテナンスサイクルの確立により、計画的な施設の更新を推進し、適切な維持管理が出来るよう取組を進めて参ります（図4）。

6. おわりに

これまでに実施してきた防災・減災、国土強靱化の取組に加え、今後とも流域治水協議会のもと流域治水プロジェクトについて着実に実施して参ります。また、カーボンニュートラルやDXの推進など、少子高齢化に突

入している状況下において、より一層、河川管理の効率化が求められるなか、未来に繋げる施策に確実に取り組んでいきます。

地域の安全・安心を確保するため、また、頻発するあらゆる自然災害に確実に備えられるよう関係者の皆様と協力しながら進めて参ります。



図4 ポンプ羽根車の更新